

京都大学学長の話

新聞を読んでいたら、右の記事を見つけました。

京都大学学長の山極氏は、霊長類の専門家として著名です。研究のため、コンゴ民主共和国に家族みんなで移住したこともあるそうです。ちなみに、都立国立高校の卒業生です(部活は男バス)。

さて、記事の内容を要約すると、「知識や情報の伝達はオンラインでもできる」「大学での“学び”は仲間と一緒に考えることが重要だ。それが“学び”の楽しみであり、“創造的な学び”が生まれる源泉でもある。」

「課題が多いとは思わない。海外のエリート大学は、日本の大学生の何倍も本を読み、レポートを書き、討論をしている。」

この話を聞いて、立川高校でやっている探究活動も、まさしくその通りだと思いました。

今、1年生も2年生もテーマが決定し、探究活動が本格的にスタートしています。皆さんの様子を見て、「他の人と話すこと。他の人と意見を交換すること。他の人に教えてあげること。他の人に教えてもらうこと。実際に実験してみる。実際に現地に行ってみること。」の重要性をひしひしと感じます。やっている皆さんも感じているのではないのでしょうか？

立川高校の探究学習は、山極氏風と言えば「創造的・総合的な知的活動」と銘打てるものだと思います。この“学び”の経験は、絶対に皆さんを助けます。ぜひ、「みんなで・楽しんで・真剣に」研究をしていきましょう！探究部は、皆さんを応援します。



オンライン授業の功罪

京都大学学長 山極寿一氏に聞く
新型コロナウイルスの感染拡大で全国の大学が一斉にオンライン授業に切り替え、長年の懸案だった大学教育のデジタル化が一気に進んだ。オンライン授業の功罪を京都大学の山極学長に聞いた。

山極学長は、海外の授業をスキャンした動画を自動翻訳して授業で使うことが広がりました。これには、言語の壁も克服されています。

大講義室の授業とは異なり、オンラインは長い時間、課題をこなすという点で、決定的な違いがある。これは、大講義室の授業とは異なり、オンラインは長い時間、課題をこなすという点で、決定的な違いがある。

学び 他人と接触してこそ



海外授業受けやすく 競争激化 大学減少も

にコロナはかからないと、学ばれた研究者が思う。オンライン授業の普及は、大学の競争を激化させている。海外の授業を受けやすくなり、大学の競争が激化している。海外の授業を受けやすくなり、大学の競争が激化している。

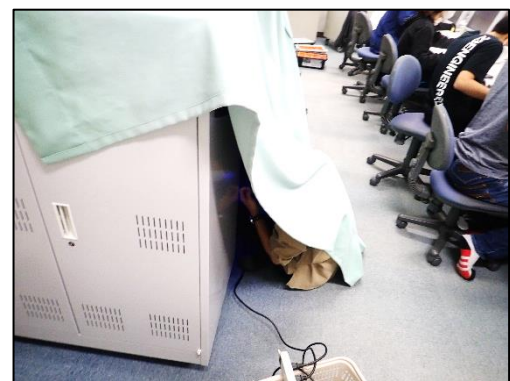
日本経済新聞 令和2年9月28日 朝刊

探究委員レポート

皆さんこんにちは。夏がすぎ、秋の涼しさを感じる頃になってきましたね。

課題研究もだんだん終盤にさしかかっています。

中間発表まで残り1ヶ月半となりました。中間発表に向けて、アンケートを発信する、実験、研究を進めるなど、本題にとりかかる生徒も多くなってきています。みなさんがどのような発表をするのかとても楽しみです。



プロジェクションマッピングの実験
この中で壁に投影しています。



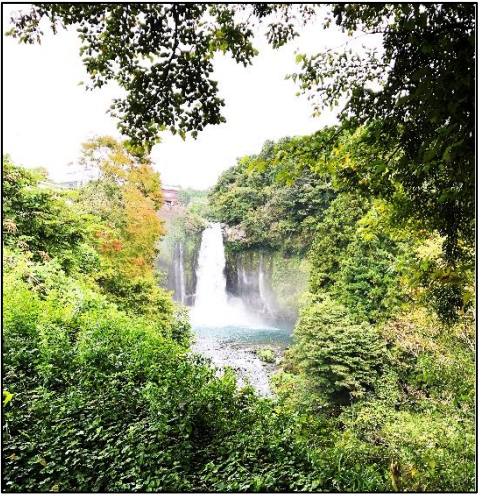
マングローブの発芽実験
うまく根付かないものも。。

フィールドワーク

SS 課題研究の一貫として、フィールドワークで、学校では学べないことを実際見たり体験したりすることができます。

9月27日には、1年2年生の計30名が、自然地理学が専門の小泉武栄先生とフィールドワークに行き、山や滝、氷穴などについて学校の授業では聞けないようなお話をたくさんしていただきました。

私たちが普段気がつかないようなことにも疑問を持ち、探究していく先生の姿勢は、私たちも見習わなければならないと思いました。



実際に見に行った滝

担当 1年F組探究委員